

教科	家庭科	学年	第1学年	担当者	星 琢磨
----	-----	----	------	-----	------

[教科目標]

生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して生活と技術との関わりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。

[使用教科書・教材等]

東京書籍『新編 新しい技術・家庭 家庭分野』
ノート プリント

[学習計画]

学期	単 元 名	学 習 の ね ら い (身につけたい力)	準備物
1 学 期	食生活と栄養 ・食事の役割を考えよう ・栄養素の種類と働きを知ろう 献立作りと食品の選択 ・食品に含まれる栄養素を知ろう ・何をどのくらい食べればよいか考えよう ・バランスのとれた食生活を考えよう【調理実習】	○自分の食生活を振り返り、さまざまな視点から課題を見つけることができる。 ○健康と食事の関係について考え、自分の食生活を工夫できる。 ○食品の栄養素の種類とはたらきや一日に必要な栄養摂取量について理解する。 ○栄養バランスのとれた献立を考えることができる。 ○安全性や衛生に留意して調理作業に取り組むことができる。	教科書 ノート プリント ワーク エプロン 三角巾 マスク
2 学 期	・食品の選び方を考えよう 調理と食文化 ・日常食の調理をしよう (肉・魚・野菜)	○生鮮食品と加工食品の特徴や種類を理解する・ ○食品についての知識を生かし、状況に応じた食品を選び、使用することができる。 ○食品の保存方法を知り、より保存性を高める加工法について理解する。 ○食品表示や食品添加物について理解する。 ○調理実習の手順を理解し、実習計画を立てることができる。 ○材料の性質を理解し、能率良く作業できる。 ○調理器具が正しく使用でき、衛生や環境に配慮した実習ができる。 ○調理実習で身に付けたことを実生活に生かす。	教科書 ノート プリント ワーク エプロン 三角巾 マスク
3 学 期	生活の課題と実践 ・日本の食文化を追求しよう 調理と食文化 ・地域の食文化を知ろう ・よりよい食生活を目指して	○食生活をよりよくするための課題の解決を目指して日常食や地域の食材を生かした調理などの計画を工夫している。 ○課題に関心を持ち、計画作りや実践に取り組もうとしている。 ○実践したことを工夫してまとめ、発表している。 ○地域の食材を生かした日常食等の調理を通して、地域の食文化に関心を持っている。 ○生活を取り巻く問題に関心を持ち、食生活をよりよくしようとしている。	教科書 ノート プリント ワーク

[評価の観点と評価の方法] (通知表のつけ方)

評価の観点	生活や技術への 関心・意欲・態度 20%	生活を工夫し創造する能力 20%	生活の技能 30%	生活や技術についての知識・理解 30%
評価の観点の趣旨	授業への態度・意欲や提出物の内容等、よりよい高い目標を設定して努力しているかどうかをみる。	今の生活を振り返り課題を見つけ、その課題を解決しようと考えているか。よりよい方法を積極的に考えているか。	学習したことに基づき、適切に判断し実践しているかどうかをみる。	学習の内容を整理し、定着しているかどうかをみる。
評価の方法	授業の準備 発表、姿勢等、授業態度、提出物状況 など授業の様子 等	授業の様子 提出物 等	授業の準備 実習の様子 提出物 等	定期テスト 提出物 等

[授業の受け方・学習のポイント] (担当の先生からのアドバイス)

教科書・ノート・準備物をしっかりと準備して授業に参加しましょう。
話を静かに聞く、姿勢、集中して授業を受けましょう。
ノートをしっかりと書きましょう。(黒板に書いてあること。人の発言や先生の説明をメモするなどノートの書き方を工夫する。)
質問や考えたこと、疑問点を積極的に発表して授業内容の理解を深めましょう。
プリントやレポート、作品の提出期限を守り、しっかりと提出しましょう。
実習に根気よく、丁寧に望む。(基本的な技能を身につけて、工夫した作品が完成できるようにしましょう。)
実習道具を正しく使い、安全に気をつけて協力し合い取り組みましょう。
ワークや教科書を丁寧に扱い、なくさないようにしましょう。

[家庭学習の進め方・学習のポイント] (担当の先生からのアドバイス)

実際に授業で学んだことを生かして、普段から家庭生活の中でお手伝い等しながら体験的に学習の理解を深めていきましょう。
社会で起こる家庭や家族に関わる出来事について関心を持ち、それらについて自分の考えをまとめ、授業についてより理解を深め、よりよい生活ができる知識を身につけましょう。

教科	家庭科	学年	第2学年	担当者	星 琢磨
----	-----	----	------	-----	------

【教科目標】

生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して生活と技術との関わりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。

【使用教科書・教材等】

東京書籍『新編 新しい技術・家庭 家庭分野』
ノート プリント

【学習計画】

学期	単 元 名	学 習 の ね ら い (身につけたい力)	準備物
1 学 期	衣生活と自立 ・着る目的を考えよう ・必要な衣服を洗濯しよう ・衣服の手入れをしよう 【被服手入れ・補修実習】 ・よりよい衣生活を目指して	○衣服のはたらきを考える。 ○目的に応じた衣服の着用や個性を生かした衣服の着用を工夫する。 ○衣服の活用方法を工夫し、日常着の適切な選択方法を知る。 ○衣服の手入れや補修の必要性を理解し、素材に応じた方法を知る。 ○基本的な縫い方、布の扱い方を習得し生活に生かす。 ○衣服の収納方法を知り、再利用について考える。	教科書 プリント ノート ワーク 裁縫道具
2 学 期	生活を豊かにするために ・生活を豊かにするための工夫をしよう 【被服製作実習】 住生活と自立 ・住まいの役割とは何だろう ・家族と住まいのかかわりを考えよう ・安全に住むためにはどうしたらよいだろう ・健康で快適な室内空間を考えよう ・よりよい住生活を目指して	○衣服の基本的な構成を理解する。 ○製作の手順を知る。 ○それぞれの作業方法について知る。 ○材料や用具を準備する。 ○採寸をできる。 ○裁断・しるしつけができる。 ○ミシンで縫い上げができる。 ○住まいの基本的な機能について理解する。 ○気候風土や文化など、地域の特性による住まいの違いについて知る。 ○室内の環境条件を知り、改善方法を考える。 ○住まいでの事故防止や自然災害への対策を考える。 ○家族と住まいのかかわりについて関心を持ち、自分の生活行為と住空間の関係を考えることができる。	教科書 ノート プリント ワーク 裁縫道具
3 学 期	わたしたちの消費生活 ・消費者としての自覚を持とう ・商品選択と購入について考えよう ・消費者の権利と責任を知ろう ・よりよい消費生活を目指して	○販売方法も特徴を知り、生活に必要な物資・サービスの適切な選択・購入ができる。 ○自分や家族の生活のしかたや消費のあり方を見直し、消費者としての自覚をもつことができる。	教科書 ノート プリント

【評価の観点と評価の方法】（通知表のつけ方）

評価の観点	生活や技術への 関心・意欲・態度 20%	生活を工夫し創造する能力 20%	生活の技能 30%	生活や技術についての知識・理解 30%
評価の観点の趣旨	授業への態度・意欲や提出物の内容等、よりよい高い目標を設定して努力しているかどうかをみる。	今の生活を振り返り課題を見つけ、その課題を解決しようと考えているか。よりよい方法を積極的に考えているか。	学習したことに基づき、適切に判断し実践しているかどうかをみる。	学習の内容を整理し、定着しているかどうかをみる。
評価の方法	授業の準備 発表、姿勢等、授業態度、提出物状況 など授業の様子 等	授業の様子 提出物 等	授業の準備 実習の様子 提出物 等	定期テスト 提出物 等

【授業の受け方・学習のポイント】（担当の先生からのアドバイス）

教科書・ノート・準備物をしっかりと準備して授業に参加しましょう。
話を静かに聞く、姿勢、集中して授業を受けましょう。
ノートをしっかりと書きましょう。（黒板に書いてあること、人の発言や先生の説明をメモするなどノートの書き方を工夫する。）
質問や考えたこと、疑問点を積極的に発表して授業内容の理解を深めましょう。
プリントやレポート、作品の提出期限を守り、しっかりと提出しましょう。
実習に根気よく、丁寧に望む。（基本的な技能を身につけて、工夫した作品が完成できるようにしましょう。）
実習道具を正しく使い、安全に気をつけて協力し合い取り組みましょう。
ワークや教科書を丁寧に扱い、なくさないようにしましょう。

【家庭学習の進め方・学習のポイント】（担当の先生からのアドバイス）

実際に授業で学んだことを生かして、普段から家庭生活の中でお手伝い等しながら体験的に学習の理解を深めていきましょう。
社会で起こる家庭や家族に関わる出来事について関心を持ち、それらについて自分の考えをまとめ、授業についてより理解を深め、よりよい生活ができる知識を身につけましょう。

教科	家庭科	学年	第3学年	担当者	星 琢磨
----	-----	----	------	-----	------

[教科目標]

生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して生活と技術との関わりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。

[使用教科書・教材等]

東京書籍『新編 新しい技術・家庭 家庭分野』
ノート プリント

[学習計画]

学期	単 元 名	学 習 の ね ら い (身につけたい力)	準備物
1 学 期	家庭と家族関係 ・家庭や家族の機能や地域とのかかわりを考えよう ・家族関係をよりよくしていこう 幼児の生活と家族 ・幼いころを振り返ろう ・幼児の心身の発達と生活を考えよう 【調理実習】 ・幼児の生活と遊びを知ろう	○家庭や家族の基本的な機能を知り、よりよい家族関係をつくるために、家族の一員としてできることを具体的に考えることができる。 ○家庭生活が地域の人々とのつながりのなかで成り立っていることが理解できる。 ○幼児期を振り返って、自分の成長を多くの人が支えてきてくれたことを知る。 ○幼児期の心と体の発達の特徴、生理的機能・運動機能の特徴を知る。 ○ことばや生活習慣の形成には周囲の援助が大切であることが理解できる。 ○発達には個人差があることを理解する。 ○幼児にとっての遊びは、心身の発達に大きくかかわり、遊びによって育つ能力が多々あることを知る。	教科書 ノート プリント ワーク エプロン 三角巾 マスク
2 学 期	・遊び道具をつくってみよう 【遊具製作実習】 ・幼児とふれ合おう 【保育実習】	○おもちゃの製作を通して、幼児の発達についての理解を深める。 ○幼児の成長を考えたおもちゃを製作することができる。 ○幼児の遊びや生活に関心を持ち、課題をもって幼児の生活に役立つものを工夫し、計画を立ててつくることができる。 ○幼児に関わる仕事を知り、幼児にあった接し方や遊び方が工夫できる。	教科書 ノート 折り紙 はさみ のり 等
3 学 期	わたしたちの消費生活 環境に配慮した消費生活 ・生活と環境の関わりについて考えよう	○環境や資源に配慮した生活をするための課題を知り、その解決に向けた実践的な態度を身に付ける。 ○循環型社会、省エネルギー、ゴミの減量化に関心を持ち、自分ができるところを工夫して行える。	教科書 ノート プリント

[評価の観点と評価の方法] (通知表のつけ方)

評価の観点	生活や技術への 関心・意欲・態度 20%	生活を工夫し創造する能力 20%	生活の技能 30%	生活や技術についての知識・理解 30%
評価の観点の趣旨	授業への態度・意欲や提出物の内容等、よりよい高い目標を設定して努力しているかどうかをみる。	今の生活を振り返り課題を見つけ、その課題を解決しようと考えているか。よりよい方法を積極的に考えているか。	学習したことに基づき、適切に判断し実践しているかどうかをみる。	学習の内容を整理し、定着しているかどうかをみる。
評価の方法	授業の準備 発表、姿勢等、授業態度、提出物状況 など授業の様子 等	授業の様子 提出物 等	授業の準備 実習の様子 提出物 等	定期テスト 提出物 等

[授業の受け方・学習のポイント] (担当の先生からのアドバイス)

- ・教科書・ノート・準備物をしっかりと準備して授業に参加しましょう。
- ・話を静かに聞く、姿勢、集中して授業を受けましょう。
- ・ノートをしっかりと書きましょう。(黒板に書いてあること、人の発言や先生の説明をメモするなどノートの書き方を工夫する。)
- ・質問や考えたこと、疑問点を積極的に発表して授業内容の理解を深めましょう。
- ・プリントやレポート、作品の提出期限を守り、しっかりと提出しましょう。
- ・実習に根気よく、丁寧に望む。(基本的な技能を身につけて、工夫した作品が完成できるようにしましょう。)
- ・実習道具を正しく使い、安全に気をつけて協力し合い取り組みましょう。
- ・ワークや教科書を丁寧に扱い、なくさないようにしましょう。

[家庭学習の進め方・学習のポイント] (担当の先生からのアドバイス)

- ・実際に授業で学んだことを生かして、普段から家庭生活の中でお手伝い等をしながら体験的に学習の理解を深めていきましょう。
- ・社会で起こる家庭や家族に関わる出来事について関心を持ち、それらについて自分の考えをまとめ、授業についてより理解を深め、よりよい生活ができる知識を身につけましょう。